

モモの病害虫の発生状況（6月）

調査地点：福島地域9園地、伊達地域9園地

（いずれも調査品種は「あかつき」）

（1）モモ灰星病

果実での発生は確認されませんでした。本年は花腐れの発生が多かったため、本病菌の密度が高まっています。現在早生種の重要防除期であるので、灰星病防除剤を散布しましょう。

（2）モモせん孔細菌病

6月下旬の新梢葉での発生は場割合はやや少～平年並であり、果実での発生は確認されませんでした（図1）。

梅雨期は発病が急増するおそれがあるため、引き続き注意が必要です。再度園地を見回り、発病部位は見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。薬剤散布は、降雨前の実施を基本とし、散布間隔があきすぎないように実施しましょう。早生～晩生種の混植園では、特に収穫前日数に十分注意しましょう。

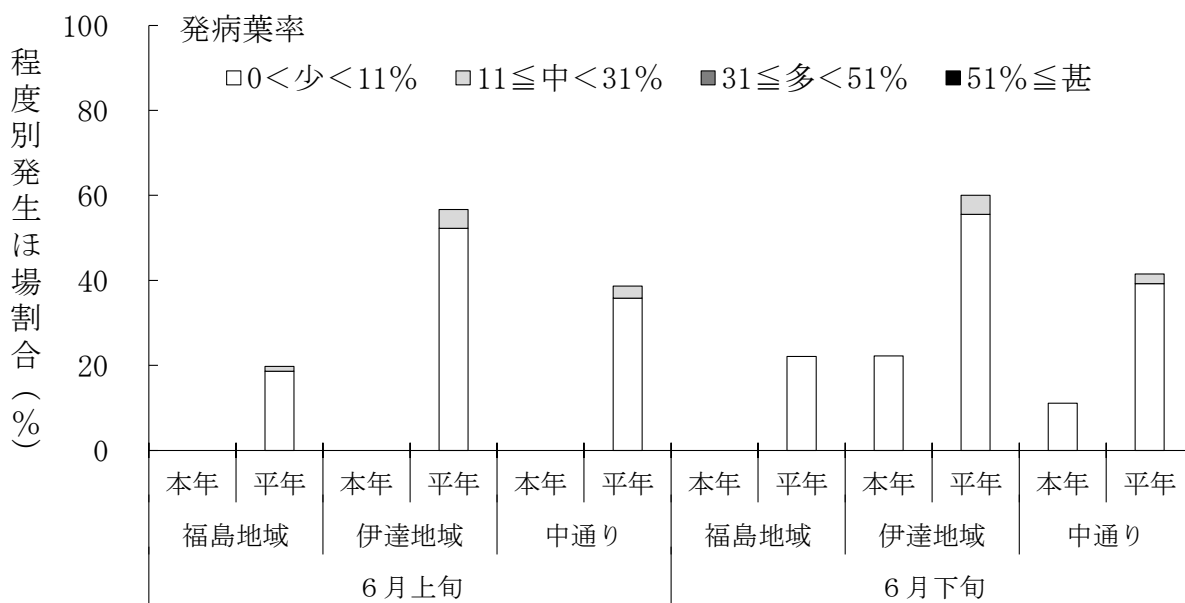


図1 モモせん孔細菌病の発生状況（新梢葉）

（3）アブラムシ類

新梢寄生の発生は、確認されませんでした。

（4）モモハモグリガ

新梢葉被害の発生は場割合は平年よりやや高くなりましたが、被害程度は高くなっておらず、前回調査より発生は場割合も低下していました（図2）。

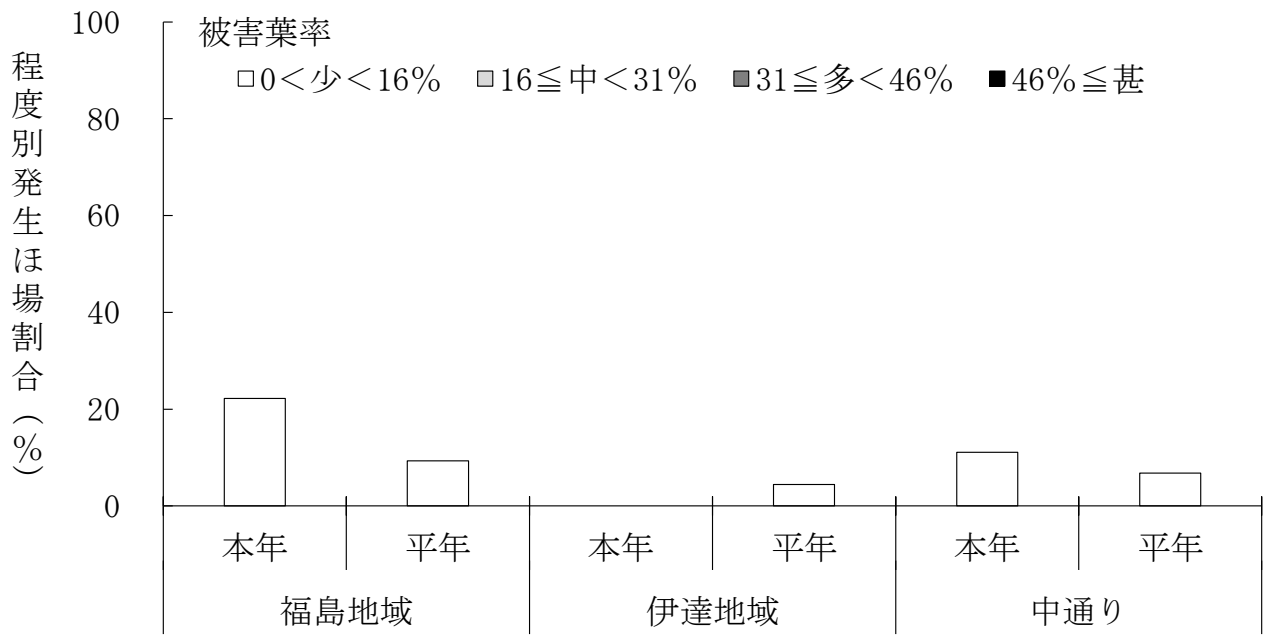


図2 モモハモグリガによる新梢葉の被害状況（新梢葉）

(5) ハダニ類

新梢葉寄生の発生ほ場割合は、平年並でした（図3）。

要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう。

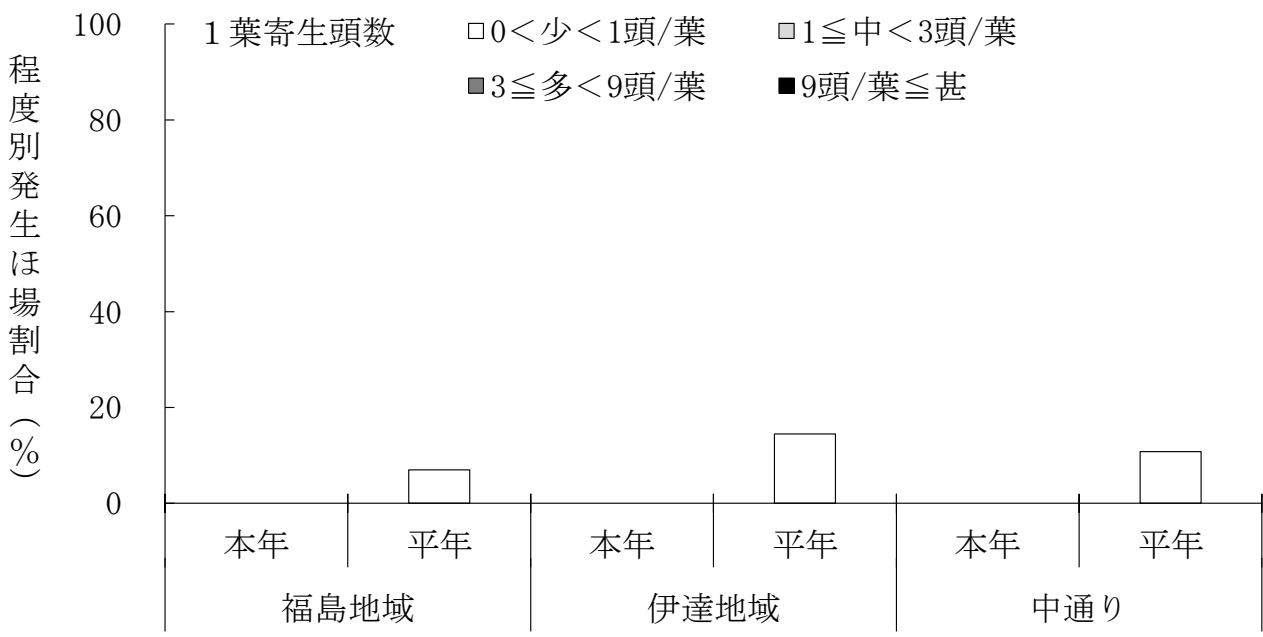


図3 ハダニ類の新梢葉寄生状況